

令和5年第2回奥出雲町総合教育会議 会議録

日 時 令和5年5月25日(木)
 開 会 午後3時10分
 閉 会 午後3時54分
 場 所 奥出雲町役場仁多庁舎 3階 301会議室
 出席委員 糸原保町長 松田武彦教育長 福田充雄教育長職務代理
 荒金勇吉委員 松崎百合子委員
 事務局 江角啓総務課長 石原企画員
 高尾昭浩教育魅力課長 江角浩司教育魅力課長代理
 青木秀樹教育魅力課学校再編係長

江角総務課長

※開会宣言

糸原町長

(挨拶)

糸原町長

<協議・調整事項>

(1)奥出雲町教育振興施策大綱について(意見聴取)

※学校再編統合後を見据えた教育大綱の改訂に係る町長の考え方を説明。

資料：教育大綱の改訂について、第2次奥出雲町総合計画

- ① 人口減少は奥出雲町にとっては第1の課題。出生数の減少。
- ② ふるさと教育とは何か、魅力ある教育とは何か。
- ③ 教育大綱の学校での実践は。
- ④ 幼・小・中・高・専門学校の教育は町が責任を持つ。

奥出雲の教育、地域と繋がりを持たせていく必要がある。これまでの継続ではなく、奥出雲町の存続と、子ども達のために、伝統や歴史を大切にしながらも時代に合った、新たな大綱づくり、町づくりにご協力を頂ければと思う。

町長の意見、説明は以上。

糸原町長

教育委員の皆様のご意見とか、お聞かせいただければと思うところがございます。そんなに堅くではなくて、お話を少しさせて頂ければと思います。

福田職務代理

町長さんの思いを聞かせてもらって、大変ありがたいなと言うふうな、聞き方をさせて頂きました。

教育大綱については、令和3年、4年。3年だったか。教育委員会の中で、大綱の話若干した覚えはあるのですが、再編の関係もあつたりして、そこから進んでいないというのが現状だと思います。町長さんおっしゃったように、今まで、こうこうこうだったから、こうだと言うことではなくて、新しい小学校が新たに

できるということ。それから中学校についても、今のままでいいのかということもあるわけですし、そういう、いわゆる変革期にあつてですね、変革期にある教育大綱はどうあるべきなのかということをやはり、考えていく必要があるのだろうなというふうには思っています。

基本的には、私が大事にしたいなと思うのは、1つは、やはり、子ども達に力をつけてやりたいということです。学力は当然なのですが、基礎学力という部分は、当然なのですが、町長さん、お書きになっている、いわゆる人間力。子どもで言うと、私は子ども力という言い方をしますが、子ども力を培っていくということ。もう1つは、子どもだけでいいのかという、思いがあります。いわゆる大人力を作っていないと、子ども力を支えていく、地域の力になりえないだろうなというふうには思っています。

だから、1つは学校教育を充実させるということと、もう1つは、社会教育です。やはり、きちっと推進していく、地域での学習力をつけていく必要があるだろうというふうには思っています。学社連携という言い方をしますが、本来のコミュニティスクールもですね、いわゆる、学校と社会の連携によって、初めてできる作業ですので、そういう意味からいくと、色んな事を言いますが、今、小さな拠点づくりを各地域で、ちょっと横田はどうなのか分かりませんが、各地域で取り組んでいる訳ですね。そのことも踏まえてですね、学校統合は、学校だけの問題だけではなくて、地域の問題であつて、地域の中で、やっぱり、子どもが語られるような地域でないと、多分、子どもは育たんだろうという思いがあります。そういう観点から言うと、さっき言った、いわゆる、大人力と子ども力が一緒になって、こう、のびていくという事を一番大事な事かなというふうには思っています。そういう意味では、子ども達には、いわゆる、生きる力と言う事を随分前に言われたのですが、まさしく、生きる力を育む学校教育を推進していくことと、それを支えるための社会教育の力を伸ばしていくということが、大きく必要なだろう。そのことによって初めて人材育成が出来るのだろうなというふうには思っています。

それから、大事にしたいのは、いわゆる、人権教育という部分を、大事にしていきたいなというふうには思っています。たまたま、僕は、人権協のお世話をさせてもらっているのですが、人権教育は、やはり、命の教育ということだと私は思っていますので、そういう意味では、差別の問題も大きいのですが、今、LGBTの問題、諸々な人権にかかわる問題が議論されているのだけでも、なかなか、まともな議論になっていないなという思いがあります。そういう意味では、やはり、奥出雲町の中で、いわゆる、みんなを、一人ひとりを大切にするというような、地域の雰囲気やはり無いと、多分、外から入って来ない。田舎の排他的な状況が、もし感じられるとすると、関係人口の増加なんてなかなか無理な話じゃないかと。そう意味では、やはり、人権の教育を大きな課題にしていきたいなという思いがあります。

それから、さっき、ふるさと教育の話がされましたけど、私も「たたら」だけで

はないと思っています。奥出雲にはですね、子ども達に話していると、自然が豊かで云々という言い方をするのだけれども、たまたま、この間、仁多中学校の子どもと船通山に上がってきたのですが、それで、あんなたち、ほんに自然が、奥出雲の自然をいいと思つとるかね、みたいな話をすると、うーんみたいな言い方をするのは。口では言うのだけど、なかなか、それが実感として子ども達の中にない。そういう意味では、奥出雲の自然もそうですが、地域の文化も含めてですね、奥出雲にある。さっき、宝という言い方をどっかでされたのだけど、やはり、宝がいっぱいあるわけですね。それをきちんと教材化してやって、子ども達に示してやったり、あるいは、子ども達に体験させていったり、と言うような事を総合的にやっていく必要があるのだろうなというふうに思っています。ご承知の通り、文化的景観であったり、日本遺産であったり、農業遺産に関わっている訳ですけども、そういうものも、やはり、子ども達ばかりではなくて、地域の中で浸透していないというのが現実だろうと思うのですよね。そういう事もひっくるめて、学校教育、あるいは社会教育、生涯学習といいますかね、そこら辺の統合を図っていく必要があるのだろうなというふうな事を思っています。

荒金委員

さすが、福田委員さんです。久しぶりのお話を聞いて、そうだ、そうだという気がしています。

僕も、教育委員やっている訳ですけど、社会教育ばかりかな、青年団をやっている、そこから続けて色んな方面に顔を出すようになって、ここにいるというような感じです。

実は、教育委員をお受けしたのが結構前になるのですが、お受けしたときに、せつかくなら奥出雲町に図書館が欲しいよという事を仲間たちと話して、お前、教育委員になるのだったら、いい具合になんとか図書館できればな、という考えにならんかね、という話をしながら、年数がたちました。と言うのが、学校再編の問題がなかなか見通せないという事で、これの次には、図書館の整備が欲しいなという思いを続けながら、今日も来ています。

別に図書館は、本を貸し出すだけの施設じゃないと僕は思っています。様々な年代の人達の暮らしを支える。もちろん、教育も支えてくれる施設になりうるものだなという気がしています。先程言われた、大人力、子ども力、これどちらも、もしかしたら図書館を基軸とした社会教育みたいな事をしていく中で、何か出来るのではないかな。農業遺産の物を町民の皆さんと一緒に共有していくというようなことにしても、色んなこと、そこに図書館っていう施設を基軸に何かを持って行くことが出来ないかなという、非常に幅広い可能性を秘めた物だと思っています。

もちろん、今、仁多に図書室があって、横田のコミセンにも図書室があって、そこにおられる職員さん達の努力も。結構、いい職員さんがおられて、とても助かっているんですけど、やはり、ある程度の規模と蔵書の数がある中でないとなかなか本領を発揮できないだろうと思います。

話があっちこっちいくのですが、小学校が2つになる。中学校も、もともと2つなんですけど、2つの校区に歩いていけるような場所に、図書館的な施設がそれぞれあると、良いと思います。そんなふうになると、奥出雲に住みたいというか、この町に住みたいと思える人たちも定住、あるいは、移住も含めてですけども、出てくる。どこかとどこかを比べる中で、ここ図書館ないのって言われるのって、不利な条件になるような気がしています。ぜひとも、県内でも、図書館の無いのは、どうやら奥出雲町だけになってしまったみたいで、なんとか、有機的に動ける図書館の整備というものがあつたらいいなど。ごめんなさい。自分の思いだけを、話をしてしまいました。

ふるさと教育の事がちょっと出たのですが、僕の気持ちの中では、子ども達にいろんな事を聞くと、将来は奥出雲に戻って、何かをしたいというのを、中学生、小学生、口をそろえて言ってくれます。自分自身の小中の時代には、そんなことを思いもしなかった。だから、ふるさと教育はやはり、ふるさとの良さというのは本当に分かっているかどうかは別にしてですけども、やはり、いい所だなという認識をしていて、いつか、この町でという思いを学生たちが抱いてくれているというのは、ある一定の成果はある。現実には、次がなかなか難しいところがあるなっていう気がして。かなり幅広く浸透はしてきているというふうには思っています。更に飛躍を、というところはあると思います。すいません、ごめんなさい。思いだけを。

松崎委員

基本的には、私自身の考えとしては、しつけと教育って家庭が基本だと思っているのですよ。やはり、よく皆さん、中学校でもっと学力をつけてもらわないととか、どっちかという、学校の先生に対しての期待が大きいかとは思いますが。公立学校なので、そこは、先生たちが、やっつけている。でも、学校は人間関係とか、他の部分も育む場所だと思っていて、だからこそ、福田委員さんが最初におっしゃっていた、子ども力だけではなくて、大人力とか、周りの社会福祉というところの、底上げというか。今、すごく、私も本当にそうだなと思っていて、ふるさと教育にも関わるのですが。以前、亡くなられた井上町長が、自分は小さい時から奥出雲に誇りを持って。絶対、将来大きくなったら、この町に戻ってきて貢献したいと、小さい時から思っていた。なぜかという、自分の母親が、お前が生まれ育ったところはすごい所なんだと、常に言っていて、こんな田舎とは一言も言わなかった。だから自分はずっと、ふるさとに誇りを持っていたというのを聞いて。今の大人も全てではないですけど、こういう田舎、ちょっと休みの日は、ゆめタウン行くかとか、わりとそういうのは子どもにも影響があるだろうなというのは、思っている。やはり、奥出雲で子どもを育てる点にとって、地域との関わりとか都会では絶対ないので。最近も、ゴールデンウィークにも、うちの娘は、北村さんの田植えに、田植え機に乗せてもらって、手伝わせてもらったのですが。そういった、地域の方と関わって、その地域の手伝いをするっていうのが、本人の情操教育にすごくいい影響がある

など思っています。それに絡めて、今、小さな拠点づくりも各地で、どちらかという、あれは福祉分野としてとらえられて、高齢者のための地域づくりにはなっているのですが、結構、私の住んでいる鳥上も、高齢者の方が、活発に活動をしているのですが、個人的には、そういうふうに子どもも一緒に入って地域活動ができればいいなという思いがあって。なかなか、今、子どもは子どものイベント、老人会は老人会のイベントで、お年寄りが小学校の掃除をしているっていうところに入れればいいのにといいながら。と、言うのが、コロナ禍でそれが停滞したのもあるので、できるだけ地域の大人が、そういった情操教育の、ふるさと教育の面には、関わって行けたらいいのではないかなと言うのはあります。

周りの大人という意味では、さっきの図書館の事もあるのですが、特に横田は日曜日に閉まっているのですよね。日曜日どこも過ごすところがないから、外に出るわってというのが一因でもあって、本を読む人がいないから、図書館が無いのか、図書館が無いから本を読む人がいないのか、そこら辺が、卵が先か、鶏が先かという部分ではあるのですが。やはり、子育てする環境として、よく聞くのは、横田限定になってしまうのですが、図書館が欲しい、後は、もっと広い学童が欲しいというのは、よく聞く意見ではあります。

最後に横田高校ですけど。大人も、いけないですね、ここは何もないけんとか。田舎だけんとか、意見の中の一つに横田高校が、名前を書けば入れる学校だけんというふうに言われるのですよね、やっぱり。全員じゃないですよ。結構、そういう意見を聞くことがあって。いや、高校の先生って、県立高校の先生って異動されているし、前にいた先生も、そのあと松江北の進路指導主事になったりとかして、結構、優秀な先生がおられて、本当に親の意識と子どもの意識、連動しているのですが。それ次第で伸びるのに。横田高校は、とりあえず、ホッケーやるか、地元で通う。確実に入れるからってところが雰囲気としてあって、すごくもったいないなって。やはり、自己高揚感のあまり高くない、生徒が増えてきているのじゃないかって、中学校と高校の先生から聞いていて、そういった面でも、基本は家庭なのです。家庭が、基本なのですが、家庭の全体の関心を高めるためにも、最初の福田委員さんが言われた、社会福祉とか、大人力とか、そっちの方が実際大事なんじゃないかなって思っています。

松田教育長

教育大綱の改訂という事についての町長の思いは何わせていただきました。納得できる事、それから、もうちょっと、メンテがいるようなもの、両方あるのかなと思っています。

教育大綱という事で考えると、本日資料としていただいていますけど、第2次奥出雲町総合計画の中での、子育て、教育の充実と奥出雲を担う人づくりという部分が、かなりやはり、変わってきて、今日の委員の皆様のお話を聞いていて、私も思うところですけど。かつては、義務教育、小中学校の教育、一部幼稚園というのが入ってきて、それから、社会教育という部分というふうな形でやってきたのですが、この、今の時代の中では、なかなかそういう括りではできなくな

っていて、それこそ、今日お話しがあったように、地域であったりとか、以前から家庭教育という事も言われていますけど、本当に今、おっしゃっている、まちづくりとか、それから、人材育成という事について言うと、町長がしばしばおっしゃる総力戦の町づくり、ということとまるっきり一緒なんだろうというふうに思っています。ですから、ここに書いていただいている、幼児教育、義務教育の中でも、初等、中等教育から、高等教育、専門教育みたいな形の中で、ここでは、高校、専門学校の教育も町が責任を持ってということを書いていただいていますけども、本当に、教育機関全体を通して、どうやっていくかって言う、責任を持つという言い方はなかなか難しいとは思いますが、そういう視点がまず1つはいるだろうと。それを支えるための地域であったりとか、荒金委員さんのおっしゃっていただいた、文化施設、図書館を中心にした文化施設であったりとか、そういう総合的な物をやはり考えていく必要がある。その中で、教育大綱の部分、その中のどこの所を持って行くべきか、という事を考えております。

言いたいのは、ここに書いてある町長さんの思いは、十分ではないですけども、今日のところで伺わせていただいて、やはり、一番初めに福田委員さんがおっしゃったように、社会教育であったりとか、家庭教育であったりとか、そういうところをどういうふうに持って行くか、地域づくりをどういうふうに持って行くかという事になって来ると、多分、教育委員会だけの問題ではなくて、施策としてどう持って行くかという、大きな視点も考える必要があるのではないかなという事を、頭の中で整理がつかないなと思いつつ、今、思っているところです。

福田職務代理

おっしゃる通りです。やはり、地域を上げてって言われる、総力戦の話ですけど。やはり、子どもを育てるのは、地域をあげてやらんと。もう、学校教育だけで教育が出来る時代ではないのですよね。だから、そのことをね、みんなが自覚しておってくればいいのだけど、さっき、松崎委員さんがおっしゃるように、そのところをつめてかからんと、いけんかなという思いはあります。

やはり、地域をあげて育てるのだと言う事を、地域のみんながこう、肝に命ずるといいますかね、そういうものが無いと難しいかなというふうに。それが、教育だけの問題ではなくて、地域の中の豊かさみたいなものがあればですね。金銭的な豊かさって意味じゃなくて、ゆとりをもって、豊かさみたいなものが、地域にあればですね、やはり、子育てに関しても、いい具合にいくようになるだろうし、ゆとりをもって、それぞれの家庭で親が接するでしょうし。そういう意味では、さっき教育長がおっしゃった、教育分野だけではない。これは、もう、もうちょっと、広いところも見て頂きながら、色んな施策をうってもらっている訳です。そういうものの総合的な捉え方をしていく必要があるのかな、というふうに思います。

糸原町長

今、総合戦略とか言っている。総合戦略そのものは、結局、全て、やはり、人口が減っていく中で、すべてを包含して、総合戦略で人口減少対策をしている訳な

のです。ですから、やはり、教育の部分も結局同じでして、例えば、子どもが通うにしても、公共交通も考えないといけない。ですけど実際には、本当に、その送り迎えをする人の数も算段がつかないみたいなところから、今、やっている訳でございます。そういった事も含めて、本当に子育てをされる人、親だ、これからは家庭だと言いつつも、奥出雲町の中でもなかなか、代わりに見てくれる人がいないとか、親御さんだけではなかなか。このコロナの中で私もあったのですが、どちらかがコロナになった、預かってくれる人がいないみたいな話が、奥出雲の町内でも起きていて、色々なファミリーサポートみたいな仕組みは作っているんですけど、やはり、町民の皆さんは、本当にその子育ても一緒にやるのだ、一緒に自分の子どもみたいに育てるのだ、みたいな心にはしていかないと、これからやっていけないだろうと言うところなんです。事業所さんにも、応援サポートもしていただいている事業所さんもありまして、そういった方々も含めて、これから本当に教育と子育ても一緒なのだという事を、きちんとやっていくという事をしていかないといけないと思います。確かに教育大綱、教育長に言われた部分もあって、どこまでで作るのだという事があるのですけれども、やはり、かなり広い範囲の所をうまく、きちんとやって行かないといけないということです。役場の中でも、縦割りということもありますが、その中でも、これからチームを組んで、子育てグループ、教育子育てグループというような形で、役場の中も今、変えていこうとしてやっています。それもやはり、地域の皆さんと一緒に。小さな拠点がない地域もあるのですが、とはもう言っていられない時期に来ています。そうした社会教育も含めて、本当に総力戦という事でいきたいと思っています。

最近の子どもは、地域に貢献したいという子も、確かにいます。僕らの子どもの頃は、そういう事を考えていなかった。最近はそのような子も、確かにいます。それは、今までの教育の中でそういう努力があったのかかもしれません。現在は、家庭での教育と言うのは、確かに少なくなっていて。例えば、「たくましい馬木の子」ですが、馬木の子は、おそらく、家の手伝いをいっぱいしておられる。町内での地域性もあったのでしょ。そういったところも、今は地域で出来なくなった部分を行政がしなきゃいけない部分も、今出てきている中で、家庭で出来る、だけど、それだけじゃできない部分を、行政や周りの人達でもしてあげるとかいう事もしていかないといけないのかなと思っています。行政でいくと、確かに金銭的な支援ばかり話が出るのだけでも、やはり、環境とか。例えば、確かに図書館とか、文化とか、スポーツとかですね、そういった事が無いところは、やはり、地域が衰えるとも言われるので、そういったところも大事にしながら取り組んで行かないといけないというふうには思っているところであります。

今日はさわりの部分になっているのですが、そういうところも含めて、皆様にご相談をしながらこれから考えてまいります。

(2)横田地域統合小学校の制服について (意見聴取)

糸原町長

次に、横田地域の統合小学校の服装についてでございます。

横田地域統合小学校の服装について、推進委員会が保護者アンケートを実施されておりまして、詳細なアンケート結果は、お手元に配布している資料の通りでございます。

推進委員会としては、私服との意見書をいただいております。本来ですと、服装については、学校と保護者とで相談して決めていただくものでございますが、学校再編にあたっては、町の方で最終決定をすることとなっております。

そこで、この場で協議させていただいて、決定させていただきたいと思っておりますので、それぞれのご意見を伺いたいと思っております。

資料1：服装・体操服に関するアンケート調査結果、資料2：服装に関する再アンケート集計結果

資料：横田地域統合小学校児童の服装について（意見書）

松田教育長

教育長という立場から言えば、保護者の皆様の考えを優先したいなというふうに思っています。それから、先ほど町長さんが、本来であれば、PTA、保護者と学校とで、相談をしてという事がありまして、現在まだ、学校の方は、当然新しい学校にはなっておりませんが、一応、現、横田域の4つの小学校の代表である校長の方に、どうだろうかというふうに、個別に意見を聞かせていただきました。その結果で、基本的に言うと、私服の方を押しております。現状を言いますと、横田小学校、それから、馬木小学校ですか。この2つは完全に私服でございますので、特に、今、その学校に通っている子ども達というのは当然おりますので、その校長とは、私服という事を押しているのだろうというふうに思っております。それから、その他の学校につきましても、今現在、奥出雲町で務めている、横田域に務めている校長は、2名が町外から、1名は町内出身ですけど、現状、町外勤務がかなり長いので。出雲市等と言いますと、私服がほとんど、常になっているというような事を考えると、私服というふうな意見を持っているのも頷けるかなと思っております。

そこで、その教育長という立場を抜きにして、松田本人としての考えで言わせていただきますと、この色々な現状の中で、社会情勢等を含めた中で、言うと、もう、私服でも問題はないというふうに思っています。ただ、子ども達の安全を考える上では、体操服というのは必要で、鉄棒とか色々なものに巻き込みとかがあって危ないので、好きな事をする服装では。それから、靴については、やはり問題がありますので、安全面という点では、ある程度の制約は必要だろうと思っております。ただ、授業を行う上で、制服でないといけないというのではないというふうに思っておりますし、実際、登下校の時だけが制服で、学校に来れば体操服に着替えるというのが日常の生活ですので、後は、行事の時に揃っていた方がいいなという感覚で、物言いはそうなりますけど、校長の意見は、私服。教育長としての私の意見は、保護者さんの意見を尊重して、私服。個人的意見も私服でかまわないと思っております。

福田職務代理

私も結論からいうと私服でいいだろうというふうに思っています。回答を選んだ理由に、いろんな事を親さん書いていらっしゃるのですが、実は、私、横田小学校務めたことも、馬木に務めたこともあるのですが、私服で、違和感を感じたことはまったくありません。それよりも子どもたちがのびのびと動けるというか、登校にしても下校にしても、学校におるときには、体操服なんです。着替えますので。だから、さっき教育長が言われたように、体操服と、靴なんかについては、やっぱり、制約はかけるべきだろうというふうに思います。一番動きやすいものに。

日常的に、僕は、学校へ行ったり帰ったりという事を考えると、子ども達をよく見ていると、今、学生服をランドセルの間に挟んで戻って来るのですよ。朝着ていくのですが、戻るときは暑いから。ここらへんもいっぱい開けっ放しで。特に低学年。制服は、きちんとしていいわけでは、私はないと思います。

非常に動きやすいし、やはり、子どもたちは活動しやすい服装にしてやるべきだというふうに思っていますし、華美な私服への懸念があるみたいなことが書いてあるけれど、親もバカじゃないので。やはり、親は親なりにしっかり考えて、子どもに着せているわけですよ。だから、お互いに、やっぱり、信じあってですね。みんなで、きちんとした服装が出来る。子どもなりにもですねって僕は思う。なんか、服装を原因としたいじめが云々みたいな話があるけど、僕は子どももバカではないので、服装で云々という事は絶対ありえんだろうというふうには思っています。洗濯さえしてあれば、いいでしょう、という形でね。私服で、充分かなというふうに私は思っています。

荒金委員

先日の会でもお話しした通り、私服でいいと思います。親もバカじゃないという話を今、いただいて、思ったのですが、どう子育てに主体的に関わるか。自分の子どもに何を着せるか、子どもも、何を着て行ったらいいか。やっぱり、考えていけばいい話で、あえて制服にあれして、決めてしまって、無思考状態にさせるよりは、私服でいいと思います。

その他、ほぼ、同じところで、重なっておりますので、よろしくお願いします。

松崎委員

私自身、このアンケートに、娘が横田小学校4年生なもので、私服で、と回答をしていまして。制服派の懸念も読ませてもらって。確か、2回投票があったのですよ。1回目が制服が案外多かったから。色んな意見を聞いた上で、もう1回となった上で、制服派の意見も見てみたのですが。あまり、書いてある事は、まったく今問題になっていないのです。華美な服装になっている子もないし、いじめも無いし、色々で便利。経済的なんて言われますけど、うちの子なんて本当にすごく安いTシャツを週にローテーションでずっと着て、他の子もみんなそうですし。特に本当に困ったことはないのです、私服でいいのじゃないのかなと。

ただ、卒業式のセレモニー服を、買うのが、本当に抵抗。そのためだけに特に

	<p>男子が抵抗があるとの意見は、確かに大きいですけど。私自身は小学校の時、常にジャージの小学校で、卒業式はやっぱり、そういう声があつて、卒業式は、中学校の制服を着てみたい。そういう、買うのが嫌な人は、中学校の制服でもいいよという。そこもそういうふうにされたらいいんじゃないかなと思っています。</p>
糸原町長	<p>谷尻委員は、欠席なのですが、意見を事務局の方で言ってもらえれば。</p>
高尾教育魅力課長	<p>谷尻委員からご欠席のご連絡をいただいた折に、私服でいいと考えるが、何か節目、入学式だったり式典等で、男女兼用のブレザー、多分イートン服の事を言っておられると思うのですが、男女兼用でどっちでもできるような、羽織れるものがあれば良いと考えているというご意見でございますので申し伝えさせていただきます。</p>
糸原町長	<p>私は、アンケートが出るまで、実際今まで、私は、個人的な意見はどこにも話をしておりませんでした。親御さんや、学校の校長先生などの話もあるという事で、基本的には、そこを尊重したいという考えで今まで来ておりました。私も、松江地域で子どもを育てていましたけど、もうだいぶ前から私服でした。私服で困った事は、何もないかなというところでした。でも確かに、卒業式とか、そういったところでは、何を着せようかなと、そこが、どうかなということですね。そこだけでございましたね。後は、制服じゃないといけないという事はなかったです。制服は制服でいいものもあるかとは思いますが、保護者のご意見、教育委員の皆さんのご意見と一緒にいいのかなと個人的には思います。</p> <p>ご意見ありがとうございます。そういったところでですね、総合的に判断をすると、推進委員会から出された意見書の通りに私服という事で、決定させていただいても、皆さんのご意見を聞くと、よろしいかなというふうに思います。横田地域については、そういったところでよろしいでしょうか。</p> <p>(全員から同意あり)</p>
糸原町長	<p>私服と決定させていただきたいと思います。そして、ありがとうございます。推進委員会をはじめ、保護者の皆様にもそういった事も報告をさせていただくという事にしたいと思います。本日はご多用のところ、委員の皆様、特に、松崎委員については、今日から参加して頂きますけれど、本日は総合教育会議に参加をしていただきまして、本当にありがとうございます。</p> <p>教育大綱は、これからまた、検討に入るという事でございますが、皆様のご意見も踏まえまして、また、考えて検討していきたいと思っております。皆様ともいろいろ検討をさせて頂きながら、いいものにしてきたいと思っております。</p> <p>本当にこれから、それこそ、子どもも大人もいい形で、一緒になってやってい</p>

けるというような所、社会そのものをかえていくようなつもりで、頑張っていきたいと思っております。皆様、今日はありがとうございました。

※閉会宣言

会 議 録 署 名

糸原町長

糸 原 保

松田教育長

松 田 武 彦